

## 研究成果ダイジェスト 4:

# べにふうき緑茶のヒトへの効果を試す

東京海洋大学保健管理センター 教授 木谷誠一

### 通年性アレルギー患者と季節性アレルギー患者で改善効果を確認

日本茶に含まれるカテキンは、人体に有害な活性酸素の働きを抑えるだけでなく、発ガン抑制作用、抗菌、抗ウイルスなどの効果があることが判明しているが、アレルギー患者での検証はまだ十分になされていなかった。そこで、軽症アレルギー患者での予防効果と臨床効果を明らかにするため、「べにふうき」緑茶を飲んでもらった。

通年性アレルギー患者への臨床試験では、「べにふうき」緑茶の6ヵ月以上の投与で、自覚的にも客観的にも改善効果が認められた。特に、アトピー皮膚炎では、即効性はないものの、長期投与にて改善効果が確認された。また、血液中のIgE総量や末梢血好酸球数は、6ヵ月以上追跡したところ、有意な減少が認められ、他の免疫グロブリンの低下や肝障害は認められなかった。

#### ■通年性軽症アレルギー患者への「べにふうき」緑茶の効果

	自覚的効果	客観的効果	血中 IgE 総量	末梢血好酸球数
6ヵ月投与後	改善	改善	有意に減少	有意に減少

一方、季節性アレルギーに対する臨床試験として、スギ花粉が飛散する時期にスギ花粉患者46人に「べにふうき」緑茶を摂取してもらい（「べにふうき」介入群）、非飲用患者16人（非介入コントロール群）と比較・検討した。スギ花粉の季節前後でスギ特異的IgE総量を比較したところ、非介入コントロール群では増加傾向を認めたが、「べにふうき」介入群では有意な増加は認められなかった。また、末梢血好酸球数は、非介入コントロール群では季節前後で有意に増加したのに対し、「べにふうき」介入群では有意な増加は認められなかった。他の血清中のアレルギーマーカーとして、好酸球活性化の指標である炎症性タンパク質ECP（eosinophilic cationic protein）をモニターしたところ、非介入コントロール群では、季節前後で有意に増加したが、「べにふうき」介入群では減少を認めた。この結果から、「べにふうき」緑茶は、スギ花粉症の症状軽減に役立つものと考えられる。

#### ■季節性アレルギー患者における「べにふうき」緑茶投与前後のアレルギーマーカーの変化

血中アレルギーマーカー	「べにふうき」介入（飲用）の有無	スギ花粉季節前	スギ花粉季節後	増減
スギ特異的IgEの総量	「べにふうき」介入群	15.6±19.76UA/ml	15.7±20.91UA/ml	増加を認めず
	非介入コントロール群	17.5±22.70UA/ml	19.7±25.2UA/ml	増加
末梢血好酸球数	「べにふうき」介入群	215.8±212.4 個/μl	222.35±175.3 個/μl	増加を認めず
	非介入コントロール群	235.9±215.4 個/μl	346.8±300.0 個/μl	増加
ECP	「べにふうき」介入群	3.60±2.19μg/l	3.47±1.75μg/l	減少
	非介入コントロール群	4.34±7.16μg/l	8.95±9.94μg/l	増加